

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第5回高松市創造都市推進懇談会（U40／第3期）
開催日時	平成29年9月7日（木） 18時30分～20時50分
開催場所	高松市役所3階 32会議室
議 題	（1）「第4章 取り組むべき事業（プロジェクト）」（案）について （2）5つの事業について （3）その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	徳倉会長、大美副会長、坂口副会長、桑村委員、笹川委員、高島委員、田中司委員、田中祐委員、谷委員、瑞田委員、西谷委員、宮井委員、吉岡委員、若宮委員
市職員	藤本、小瀧、三浦、小松、時高、住吉、永木、森、田村、美濃、杉原
事務局	土岐局長、佐野補佐、塩田係長、松下
傍聴者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

#### 1 開会

（事務局から開会の挨拶）

#### 2 議題（1）「第4章 取り組むべき事業（プロジェクト）」について

##### 【副会長】

徳倉会長が来られるまで話をある程度進めたいと思いますが、会長からの連絡では、今日のテーマは「共有と愛」だそうです。これはおそらく、現在各グループで数回集まっていた中で、他のグループにおいてこういったことが行われているのかを、全体で共有する必要があるという意味かと思います。情報発信事業では、パラ陸上でしたり、クラフトでしたり横断的な部分があるのでそういったところを共有できたらと思います。

最初は議題（1）に関する資料について事務局から説明をお願いします。

（事務局から配付資料について説明）

##### 【会長】

今日の会では、これまで各グループで集まっていた中で、他のグループ活動の内容が良く分からない、といったことが無いようにしたり、先ほど事務局から説明いただいた資料中での図の変更点やアンバランスさを、事前打合せの中で感じ、別の図を提案させていただきました。

## 審議経過及び審議結果

そしてそれはこの会議の中で再度みなさんから御意見を出していただきたいと思っています。

また後ほどの話ではありますが、各グループリーダーからの話をぜひキャッチしていただいて、自分たちのグループと他のグループとがどういった連携ができるのかという掛算が今日の会では出来たら良いと考えています。そしてこの共有が出来たなら、各グループに戻った際に、他のグループとの連携を考えながら事業を進めていただけるようになると思います。今日はそういった意識を持って取り組んでいただければと思います。

まずは議題（1）の議論に入りたいと思います。

### 【副会長】

資料の補足をさせていただくと、資料1の図では「工芸」と「こども」が重なっていないことが気になりました。4つが上手く重なるようなレイアウトを考えたときに、一度、4つを3つに絞り、「交流」が外向き、「豊かな暮らし」が内向きと整理してはどうかと資料2の図が提案されています。その他のレイアウトや色使いなどがあれば、提案していただきたいと思います。

### 【会長】

どれが大きくてどれが小さいという話ではないですが、交流していくということは高松らしいかなと。「交流」を大事にしていく中で「こども」「食」「工芸」があり、真ん中に「豊かな暮らし」がある、というイメージにしようという議論になり資料2のような図になっています。

それでは各グループ内で議論していただき、各リーダーは意見の集約をお願いします。

—各グループにて議論—

### 【会長】

それでは、時間となりました。変更したほうが良い点など何かありますか？

### 【委員】

情報発信のグループでは、「交流」プロジェクトの「地域のコトを通して世界的な交流へ」という表現が抽象的過ぎて分かりづらい、という意見が出ました。「地域の魅力を通じて」という変更案が一つ出ています。また「世界的な交流へ」という表現が飛躍し過ぎているという意見も出ました。

### 【委員】

クラフトウィークのグループでは、「食」プロジェクトの「豊富な食文化と異文化の融合」について意見が出ました。「異文化」より「異分野」が正しいのではないかという提案が出ています。あと、先ほどの「交流」プロジェクトについても同様の意見が出て、「地域のコト」だけでなく、ヒトやモノも一緒に交流するものなので、「ヒト・モノ・コト」の3つを入れたらどうかという意見が出ています。

さらに、その前の部分である「短期的に取り組む施策・事業」という表現に違和感

があるという意見が出ました。このビジョンは、市民に浸透することを目的としていると思うので、施策や事業を短期的に取り組んだ結果、市民に醸成または波及していくといった表現を加えてはどうかと思います。

【委員】

パラ陸上のグループで出た意見としては、既に他グループで出ていますが、「食」プロジェクトの「異文化」に違和感があるというものです。「豊富な食文化」と短くしたりすることで、ストレートに伝わるほうがいいと思います。また「交流」プロジェクトの「世界的な交流」という表現では、市民との距離が出来てしまうのでは。「独自の交流」や「独創的な交流」という表現のほうがマッチするのではないかという意見が出ました。

【委員】

仕事系のグループでは、他グループ同様に「食」プロジェクトの「異文化」というワードへの違和感という意見と、資料2の図の方が違和感が無いという意見が出ました。資料2の図だと、「交流」プロジェクトの指す意味が「食」、「工芸」、「こども」をつなぐ意味合いが出てくるようになり、そこからさらに内と外とつなぐような言葉が必要になってくるのではないか、という意見が出ました。

【会長】

皆さんありがとうございます。まず事務局に伺いたいのですが、「短期的に」という言葉を削除したときにどういった影響が出るのでしょうか。即答が難しいのであれば、後日協議しておいていただければと思います。「食」プロジェクトの「異文化」を「異分野」に変えることは、特に違和感はないかと思います。あと「交流」プロジェクトのところで、「コト」と限定するのではなく全体的にするということと、「世界的な」という表現をどうするのかという意見があったかと思います。「世界的な」という表現に違和感が無いという方はいますか。

【副会長】

事務局案で、「世界的な」という表現にしたのはどういった意図があったのでしょうか。国際ピアノコンクールなど国際的なイベントを意識してのことだと推測しますが。

【事務局】

現ビジョンの総論の中でも掲げている、独創指向・未来志向・世界指向という3つの戦略を踏まえたものであり、今おっしゃっていただいたように本市で行われている国際的なイベントを意識したものでもあります。

【会長】

「世界に向けた交流」というのはどうでしょうか。自分たちのベクトルの動きを表現するのであれば、「交流」プロジェクトに適すると思う。その世界に向けて「交流」するものを「コト」に限定しないということは賛成です。

【市職員U40】

世界指向というのが腑に落ちていないというのは、取り組んでいる人たちにその意識が無いから違和感があるのではないのでしょうか。「独創的」というような言葉のほが合うのではないのでしょうか。

【会長】

では交流していくときに、どこに向かっていけばよいのですか？

【市職員U40】

まず地域の中の交流というのが肌感覚としてはあると思います。そこから外に向かって発信していければ。

【会長】

その役割はコミュニティ協議会だと思われれます。確かに創造都市高松を推進していく際に、地域というのは大事です。そこから何を交流していき、豊かなくらしを導いていくときに、こういったベクトルを設定するのかを考えたいと思います。

【市職員U40】

自然とそうなるのが望ましいと思います。皆さんがされていることは、自然と世界に向かっているんですよ、というようなニュアンスのある表現にしたいです。

【市職員U40】

「交流」を柱立てするかどうかを議論したほうが良いと思います。「豊かなくらし」というものが最後の文章中に入っていますが、もし「交流」を柱立てしないのであれば最後の文章に記載するようになるのかと思います。世界に向けて、についてですが、今ではSNSなどを通して、何かをやれば自動的に世界に発信されてしまう時代です。意識の有る無しに関わらず「世界に向けた」という言葉は入ってしまうと思います。

【会長】

それだと「世界に向けた」という言葉は無くてもよいということでしょうか。今のご意見の内容は、我々の世代では一般的ですが、我々の親の世代などでは必ずしもそうではないと思います。そういったところを長い文章ではなく、端的に表現できればいいものが出来上がるように思います。

個人的には下段のところを検討したいと思います。ホワイトボードに文章を書き出して、僕なりに分解しています。「これら4つのプロジェクトに取り組むことで」、①「異なる文化交流の土壌が育まれ」、②「移住定住も促進され」、③「文化のビジネス化」④「ビジネスのアート化」により、⑤「イノベーション環境を創出し」、⑥「また創造的な体験・教育により」、これら6つをすると⑦「豊かな時間を持つこと」につながり、豊かな時間を持つと⑧「シビックプライドを醸成」し⑨「豊かなくらし」することになるという文章です。

これを踏まえながら、違う表現などを提案していただければと思います。ただこの文章で一番言いたいことは、「これら4つのプロジェクトに取り組むことで」、「豊かなくらしを導きます」の部分なので、言ってしまうと、この2つの部分まで減らし

てしまうのも一つの案としてあると思います。論理的な文章では、述語がとても大事です。この文章でいうと、「豊かなくらしを導きます」という部分がポイントになります。この4つのプロジェクトをU40なり高松市なりが進めていくことで、豊かなくらしにつながっていく、ということ表現したほうが僕はすっきりすると思います。

【副会長】

クラフトのグループで出てたのですが、②「移住定住の促進」がなぜ「豊かなくらし」に導かれるのかが分からない、という意見がありました。

【会長】

本来でいうと、「豊かなくらし」があることで、②「移住定住が促進」されるようになるものだと僕は思います。

さらにいうと、⑧「シビックプライド」と聞いてぱっとは分からないはずですが。良い言葉ではあるのですが、前回でも分かりにくい言葉は省くという議論があったと思いますので、別の表現は何かあるでしょうか。

【委員】

⑧「シビックプライド」への違和感はグループ内でも出ていました。「郷土愛」という言葉も出たのですが、「郷土愛」だと移住者にとって馴染まないのではないかという話になり、「地域愛」という言葉だと高松で生まれ育った人と移住者の方々にとって、それほど違和感無く使えるのではないかという結論になりました。

あと⑦「豊かな時間」は「豊かなくらし」と重複するので省いたほうが良いと思います。

【市職員U40】

あとは③「文化のビジネス化」④「ビジネスのアート化」のところに違和感があるのですが、どう変えるべきかまでには至っていません。

【会長】

「これら4つのプロジェクトに取り組むことで」、「豊かなくらしを導きます。」というシンプルな表現に違和感がある方はいますか？

【委員】

個人的には、横文字が多いので、そのあたりを分かりやすくしたらどうかと思いました。

【市職員U40】

長い一文なので、一度で理解しにくいです。横文字が多いことも、読み手の何割が理解してくれるのか、という懸念があります。

【会長】

僕の提案ではやはり、シンプルなほうが良いと思います。若い年齢層で理解できないのなら、それより高い年齢層では全然入ってこないと思われます。

それか高松らしいフレーズを入れてもいいと思います。例えば、「これら4つのプロジェクトを進めることで、高松らしい豊かなくらしを導きます」という表現でしたり。ただこの表現だと、他の地名に入れ替えても使えてしまうのが難点ですが。

【市職員U40】

⑧「シビックプライド」という言葉を広く知ってもらいたいという意図があるのなら、「高松らしい誇り（シビックプライド）」のように補足を入れてみてもいいと思います。

【会長】

どなたか、⑧「シビックプライド」について説明していただけますか。

【市職員U40】

⑧「シビックプライド」というのは、文字通りの「市民としての誇り」という意味だと思います。個人的にはそれほど違和感無く、言葉が入ってきました。また、僕の意見としては、余計な表現は省き、シンプルに表現することも良い変更だと思いますが、それだけでなく、高松らしい表現であったり、「これはどういう意味の言葉だろう」と興味をひくような表現は残したほうがいいと思います。

【委員】

⑧「シビックプライド」はあまり頭に入ってこなかったです。「郷土愛」や「地域愛」という言葉の方が身近に感じられました。

【会長】

これまでの意見の中で、「愛」という言葉が入ると、移住してこられた方々にとっては重く感じてしまうのではということには確かにそういった部分があるのではないかと思います。また、一つ聞き慣れない言葉を入れることで興味を引くということは、その言葉を広く知ってもらいたいという意味でも面白い手法だと思います。

【委員】

横文字はやはり頭に入りにくいです。もっと一般の人に読んでもらうことを前提に作ったほうが良いと思います。⑧「シビックプライド」よりも「地域愛」の方がしっくりときました。一番違和感があったのは、②「移住定住の促進」が今の位置にあることです。移住定住の要素を入れることから言っても、「地域愛」がいいと思います。

【市職員U40】

「地域愛」ではなく、「愛着」だと思います。あと気になったのは、「取り組むべき事業（プロジェクト）」と事業＝プロジェクトとしておきながら、後の文章では「取り組む施策・事業を『プロジェクト』として取りまとめ」といった、事業＝プロジェクトではないような表現になっているように感じます。

【会長】

これまでの意見をまとめるとシンプルにしたほうが良いというのが一つです。後もう一つは、「シビックプライド」なり「地域愛」などの言葉を加えて、「豊かなくらし」を目指すのか、そういった言葉を入れずに「豊かなくらし」を目指すのかを多数決でお聞きしたいと思います。

(言葉を加える案に賛成多数)

【会長】

では、何かしら言葉を入れたいと思います。

【市職員U40】

先ほど会長がおっしゃられたことに近いのですが、「高松に暮らす人々」のように高松を含めた表現が良いと思います。

【会長】

「住む」や「暮らす」だと対象者が限定されると思います。「関わる人々の暮らしが豊かになる」ことを表現できたらいいと思います。

【副会長】

「高松に関わる人々」だと、「交流」プロジェクトの「世界につながる」という部分にも、ぼんやりとだが結びついてくるように思う。

【会長】

「関わる」だと、住んでいる人々が除外されているように感じる人もいるのではないのでしょうか。その危険も考えると「住む」や「暮らす」の方がいいかもしれない。

【委員】

話を元に戻すようですが、シンプルな表現にしてしまってもいいのではないのでしょうか。どの言葉も一長一短があるようですので。

【会長】

では「高松の豊かなくらしを導きます」はどうでしょうか。

【市職員U40】

「高松の」だと「高松に暮らす人」と同様の意味で、限定されると思います。私は聴いた瞬間、高松に暮らす人を思い浮かべてしまいました。

【会長】

「あなたの豊かなくらしを導きます」ではどうでしょうか。このビジョンを読んでいる人のくらしを豊かにする、という意味を込めます。

【副会長】

私が最初に読んだときは、分かりにくい言葉が多く、自分事ではない資料のように感じてしまいました。そういう意味では、「あなたの」という言葉は、自分事のように感じられていい表現だと思います。

【会長】

少し話がそれますが、講演の仕事をしている際にも、当事者意識を持ってもらうように話すと、話を聞いてもらいやすくなったり、聞き手の反応が良くなったりします。さらにいうと、「食」や「工芸」や「こども」や「交流」にあまり関心が無い層、例えば、子どもが成人してもう既に子育てを終えてしまった人々に、このビジョンの4つのプロジェクトに、自分はもう関係ないので協力しないと思われるのは悲しいです。そういった「遠い」ところにいる人たちにも、協力を得られるようにしたいです。

【市職員U40】

「あなた」という言葉は、あまり行政の文書の中で見かけないように思います。「あなた」という言葉の使用について事務局はどうお考えでしょうか。

【事務局】

おっしゃられたように、役所の計画の中で、「あなた」という言葉を使用したものを拝見したことはありません。しかし、現ビジョン中にもありますが、絵が見開きで挿し込まれているものも、見たことはありませんでした。通常は、文章とグラフで構成されていることが多いと思います。そういう意味では、この「創造都市推進ビジョン」は、通常の役所の計画とは違うところを目指して策定したものではないか、とも感じているところでございます。

【会長】

それでは、「豊かな暮らしを導きます」か、「あなたの豊かな暮らしを導きます」か、「高松の豊かな暮らしを導きます」のどれが一番いいか、皆さんに御意見をお聞きしたいと思います。

（「あなたの豊かな暮らしを導きます」が賛成多数）

【会長】

それでは「あなたの豊かな暮らしを導きます」で仮決定とさせていただきます。あと、最初のあたりで御意見いただいた分かりづらい表現でしたり、「短期的に」という表現については、正副会長と事務局に預からさせていただきます。さらに、「異文化」、「地域のコト」、「世界的な」といった表現については変更したいと思いません。

また、図について、今御意見がある方は、発言をお願いします。

【委員】

私は資料2の方が分かりやすくていいと思います。資料1の図は併記している感じに見えるのですが、資料2の図だと、上側にある円が下の2つの円に乗っかっているに

ように見えます。上の円を「こども」にして、下の二つの円を「食」と「工芸」にして、モノにヒトが支えられている感じを出したらどうかと思います。そこから、「こども」を未来やエネルギーが感じられる色として赤色にして、食は農業を始め、環境や自然とのつながりがあるので緑色にしてはどうかと思いました。

【委員】

色使いについては、デザイナーの力量によってかなり変わってくると思います。五式台の色のようで、理由のある色を使用してみてはどうでしょうか。黒色が入ってしまいますが、理由があれば構わないと思います。あと、「豊かなくらし」も円でいいのでは。

【市職員U40】

「豊かなくらし」でいうと、「豊かなくらし」の位置は、「交流」の外に来るべきではないかと思います。

【会長】

一つだけ思っていることとして、重なっている部分だけが豊かなくらしなのかということです。「食」や「工芸」のどれか一つでもあれば、自分は「豊かなくらし」になるという人もいると思います。一旦話をまとめると、資料1より資料2の方が賛同が多く、「こども」の位置も変更します。ただ、「豊かなくらし」の位置は、外側より中心にあったほうが意味として分かりやすいと思います。

【委員】

私たちのグループの中では、「豊かなくらし」の位置については特に異論も無く、むしろ違和感はないという意見が多数でした。「豊かなくらし」が目指すものとして、真ん中の位置にあるのはじっくりくるように思います。

【会長】

では、これまでの意見の集約を、副会長に形にまとめていただきたいと思います。いくつか案を作っていただくので文章と併せて皆さんに御意見をお聞きできればと思います。

ではこれから、5つの事業について、各グループリーダーから進捗状況を報告していただきたいと思います。情報発信グループからお願いします。

【委員】

情報発信&ツアー系事業では、8月10日に1回目のミーティングを行い、その中で、グループとして取り組んでいきたい事業が4つ出てきました。一つ目が#uptakamatsuのモニュメント作成。二つ目が#uptakamatsuのカード作成。三つ目が高松市の様々な情報をストックできるブログなどの作成。四つ目が、グループ内の委員の一人が考案されたTAKAMATSU PRESS ROOM構想になります。他グループへの連絡事項としては、情報発信事業は他グループと連携することが多いと思われるので、御協力をお願いします。あと、以前#uptakamatsuを公式ハッシュタグとして決定し、プレスリリースも行ったのですが、#upTAKに変更したらどうかという意見が出ています。しかし、#uptakamatsuを公式に発表してしまっているので、#upTAK

と併用して区ことを考えております。ちなみに TAK は高松空港の空港コードから取っております。

#### 【委員】

それでは TAKAMATSU PRESS ROOM 構想について説明いたします。まずプレスルームについて説明させていただいた後、私が知っている限りでの課題とその解決方法を簡単にまとめたものを説明させていただきます。

現在の高松の作り手でしたり事業者の方々は、ビジネスを始める際に補助金に頼るケースが多いと思います。またその事業のゴールを、合同展示会への出展としていることも多々見受けられるのですが、ビジネスにおいては合同展示会への出展した後がスタートになります。本来のスタートがゴールとなっているため、ビジネス展開において体力が持たず、事業自体も縮小してしまっているのではないかと考えています。2ページ目では、プレスルームの説明になります。3ページ目では、プレスルームを運営するための手順を記載しています。興味をもたれた方はぜひ目を通していただき、クラフトのグループを始め、他グループと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

#### 【副会長】

私から補足させていただくと、情報発信グループの中で志望動機の意見出しを行ったところ、当構想の実現のためにU40に参加されていたことが分かり、情報発信だけでなくクラフトグループと関連する部分が多いと思いました。もしクラフトグループのリーダーがよければ、一緒に情報共有をしていければと思っています。

#### 【委員】

クラフトウィークのグループではまだ話し合いができていませんが、事業の話は既に私が進めています。まずクラフトウィークという名前ですが、クラフトというのは手仕事という意味合いが強いので、工芸ウィークに変更したいと考えています。基本構想としては、まず伝統工芸品を展示する、そしてそれらを民間の店舗で販売する、さらにその店舗と、事業者や伝統工芸士とコラボ商品等を開発し販売し、ワークショップ等の周知イベントや異業種交流を行います。これら一連の流れの大枠が、広報活動の統一化でして、先ほどの構想と重なる部分もあり、なぜウィークとしているかの理由にもつながります。これまでも多くの事業が行われてきましたが、外に向けたものが少なかったように思います。広範性といえは瀬戸内国際芸術祭ですが、やはり大きいことを一元化して人に伝えるということをしないと、なかなか伝わりにくいように思います。既存の工芸の活動をしているところと協力して、統一のチラシを作るなど一元的に広報し、ウィークなので開催期間も一元化することが最大の目的となります。

既にですが、今年10月に「工芸運動@高松」という企画展を行おうと考えています。従来ですと、庵治石や漆、手まりは別々で販売していたのですが、一緒に取り扱うようにし、事業者向けのセミナーも行うものです。ぜひU40の皆さんにも参加していただきたいと思います。

#### 【委員】

パラ陸上チームの報告ですが、8月19日にメンバーの足並みをそろえる意味での

ミーティングを行いました。他事業と異なるのは、私たちの事業はゴールが決まっていることです。それが今日リリースされた2018年9月1日・2日開催の日本パラ陸上選手権です。そして私たちが大きく掲げているのは2つあり、1つが競技場に来てくれる人の集客と関係作りです。2つ目は、選手だけでなく大会関係者も良いパフォーマンスを出せること、県外から来られた方にまた来たいと思ってもらうことです。この2つを踏まえたテーマが、「心のバリアフリーを高松から」というものです。

まずファン作りですが、競技場に来てもらうことが一番になります。会場に来て応援を盛り上げてもらい、それが選手にとってもいいパフォーマンスにつながるようになります。今、グループ内の委員の一人が、色々な学校講演に行かれています。そのお手伝いをするを考えています。小学生が来る場合は保護者の方がほぼ間違いなくくるので、2020年に向けて、パラ陸上は競技としても楽しめるということを知ってもらう機会になると思います。またそのような先進的な取組を高松で行われているということを知ってもらえればと考えています。

2つ目ですが、学びCANで「おもてなしをするためのボランティア研修講座」というものをやります。2020年に向けてスポーツだけでなく、ボランティアの機運も高まっています。11月から3月の間で計5回開催予定です。内容も、普段の生活にも役に立つようなものと考えておりますので、ぜひ御家族で来ていただきたいと思っております。

他グループとの連携ですが、今後、講座を始めたり学校訪問をしたりする中で、U40として活動しているということを見せていくことが大事だと思っています。なのでパラ陸上グループ独自の発信よりも、情報発信グループと連携して一本化した情報発信をしていければと考えております。

#### 【委員】

仕事系事業の活動報告をさせていただきます。これまで2回ミーティングを行いました。内容は事業の方向性を固めたことと、企画書を見ながら意見交換を行ったことです。事業の説明をさせていただきますと、背景として、高松では中小企業だったり人手不足になっている一方で、働く側としては高松には仕事がないと嘆いているという状況があります。プロジェクト名は検討中ですが、情報の受け手となるプラットフォームの形成がやろうとしていることになります。移住セミナーや人材紹介業など既存の事業では、多数の人を相手にすると情報が浅くなる一方で、個別の面接まで検討している人はそこまで人数が少ないという状況があります。その間を上手く持った、情報が深くはあるけども多様性もあるような事業にしたいと考えています。一言で言うと、「高松で暮らし・働くことにポジティブでモチベーションの高い若者に、情報や支援プログラムを届ける新しい体制を作る」ことです。事業の対象者としては、仕事が決まっているわけではないけども、ローカルだったり高松で生きるということにモチベーションが高い、条件が合えば高松で働く、又は高松で働くことを選択肢の一つにしている人を上手く掘り起こしたいと考えています。事業の具体的な内容としては、U40委員の皆さんの周囲の数人でいいので、地方に対してポジティブだけれども、就業までの行動に至っていない予備軍を発掘できたらということが一つです。そこから仕事系グループでは、そういった方々を実際の企業等に接続するプログラムを作ろうと考えています。また事業のコンセプトとして「高松で暮らし・働くことをおもしろがる若者が集まる場を作る」ということを掲げています。具体的には、

就業希望者だけではなく、高松をおもしろいと思ってくれている若者の場を作ること考えています。色んな刺激が生まれるようなプログラムを作ろうと考えていて、企業への誘導だけではなく、高松とのつながり方を作り出していくことを狙いとしています。

U40の活動としては、事業の参加者にはプログラムを提供し、対象企業には情報提供し、二者間をつなぐということを考えています。

他グループへの依頼としては、情報発信グループと委員の皆さんの周囲の方々への発信をお願いしたいと思います。また、このプラットフォームが形成されれば、事業への参加者によっては、どのグループとも関連する可能性があるのでは、その際は御協力をお願いすることになるかと思えます。

#### 【会長】

各リーダーにお願いですが、今日の資料はフェイスブックに上げておいていただきたいと思います。この4つのグループは掛け算をすることで飛躍的につながっていくことが出来るものだと思っています。

ビジョン案については一旦正副会長と事務局で預からさせていただいて、また皆さんからレスポンスを頂くことになるかと思えます。

本日はありがとうございました。

(事務局から次回開催予定を伝達後、閉会)